

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

<p>地域で豊かに生きていく力の育成をめざす学校</p> <p>本校において、豊かに生きていく力とは、</p> <p>1 豊かなところ 2 楽しむ力 3 体力 4 コミュニケーション力</p> <p>の4つの力を重点とする。</p>
--

## 2 中期的目標

<p>1 知的障がい支援学校として計画的で効果的な研修・研究に取り組み、授業力の向上をめざす。</p> <p>(1) 授業力向上に向け、研究テーマを絞って授業研究を進める。</p> <p>(2) 障がいの多様化に応じた教育活動が展開できるように研修を充実させ、専門性の向上を図る。</p> <p>(3) 外部人材を積極的に活用する。</p> <p>2 新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成と小学部・中学部・高等部の継続的系統的なキャリア教育の充実を図る。</p> <p>(1) 教科領域のシラバスを作成する。</p> <p>(2) 児童生徒の一人ひとりの実態を踏まえたうえで、生涯にわたる身体づくりに取り組む。</p> <p>(3) 高等部職業コースの取り組みを、年間を通じて定着させ、実施内容を検証する。</p> <p>(4) 高等部職業コースの取り組みを小学部・中学部の取り組みとも関連させ、学校全体としての取り組みに進化させる。</p> <p>(5) 地域と連携した取り組みを進め、開かれた学校づくりを進める。</p> <p>3 特別支援教育のセンター的機能の発揮と、地域と連携した安全で安心な開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(1) 地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒のニーズに応じた支援を実施する。</p> <p>(2) 本校教職員間においても校内支援を充実させ、専門的な取り組みについてのボトムアップを図る。</p> <p>(3) 教職員全員が、児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、お互いが思いやりのある環境づくりを推進する。</p> <p>(4) 様々な災害を想定した訓練を実施し、より現実に対応ができるようにする。</p> <p>(5) 開かれた学校づくりに向けた情報発信を行う。</p>
--

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○ 保護者、教職員に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回収率は、保護者については 56.0% (昨年度比-13.5 ポイント) 教職員については 93.4% (昨年度比+0.4 ポイント) であった。昨年度今年度と保護者の提出率が低下してきている。</li> <li>A(よくあてはまる)+B(ややあてはまる)を肯定的回答、C(あまりあてはまらない)+D(あてはまらない)+E(無記入)を否定的回答として捉えた。</li> </ul> <p>&lt;教育活動に関するもの&gt;</p> <p>21 項目中、肯定的意見が 80%以上の項目が 16 項目あり、90%以上の項目は 6 項目あった。昨年度と同様「学習内容・学校生活の様子を懇談や通信、連絡帳などによって知ることができる」(94%)、「運動会や遠足、宿泊学習・修学旅行などの行事は、参加しやすいように工夫されている」(97%)は肯定的意見が非常に高いものとなっている。一方「児童生徒会活動は活発である」(73%)、「こどもは積極的にクラブ活動をしている」(45%)と肯定的意見は低い。これらも昨年度と同じ傾向である。クラブ活動については小学部児童は参加していない現状と自主通学、もしくは保護者の送迎を必要としている条件面が反映していると思われる。</p> <p>「進路や職業などについて適切な指導を行っている」に関して無記入が 12%あり早い時期からのキャリア教育が必要である。</p> <p>クラブ活動、生徒会活動、進路指導に関する質問について、無記入が比較的多くあった。</p> <p>&lt;学校運営に関するもの&gt;</p> <p>19 項目中肯定的意見が 80%以上の項目が 17 項目あり、90%以上の項目も 14 項目あった。「参観の機会を設けている」(98%)、「学校行事や参観に参加したことがある」(98%)、「家庭への意思疎通を行っている」(95%)、など昨年と同様の傾向である。ホームページについては「情報発信している」(75%)と相変わらず低く学校ホームページからの発信方法を検討していく必要性が感じられる。</p> <p>「施設設備は学習環境面で満足している」では 25%の否定的意見があり、また自由記述でも敷地の狭さや設備面の改善を求める記述があった。</p> <p>学校運営に関するものは全般的に肯定的意見が多かった。</p> <p>&lt;教職員&gt;</p> <p>51 項目中、肯定的意見が 80%を超える項目は 9 項目であった。「指導内容の工夫・改善」「自立活動を主体的に取り組む工夫」「生活指導上の問題での家庭との連携」などは肯定的意見が多い。逆に否定的な意見が多いものとして、「特色ある教育活動に取り組んでいる」「校内人事について」「校</p>	<p>第 1 回学校運営協議会 令和元年 5 月 17 日</p> <p>議題・ご意見</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>会長、副会長選出について <ul style="list-style-type: none"> <li>会長は昨年度に引き続き選出。副会長は今年度の PTA 会長を選出。</li> </ul> </li> <li>令和元年度 学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>校長が変わった事、委員の入れ替わりのため再度今年度の委員に説明し承認を得た。</li> </ul> </li> <li>平成 30 年度 進路状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>5 年間の進路状況について、本校の傾向について説明した。職業コースの開設により、就労への意欲、就労への捉え方、就労希望は変化していくものと思われる。</li> </ul> </li> <li>平成 31 年度 教科書採択について <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、本校小学部から高等部までの支援学校の教科書について展示し、説明を行った。</li> </ul> </li> <li>授業見学 <ul style="list-style-type: none"> <li>本校高等部 2 年生の「職業」の授業を中心に授業見学を行った。</li> </ul> </li> <li>委員からの質問 (まとめ) <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校経営計画について (1) 中期的目標の中で、地域のボランティアの活用があるが、農園などの散水など、地域でもできることを活用してもらいたい。→支援学校では通学範囲が広く、地域の方とコラボできていないので、今後考えていきたい。</li> <li>(2) 外部人材を積極的に活用するという重点目標の中で、福祉医療との連携は書かれているが、福祉サービスとの連携も取れるとよいと考える。→地域の方との連携もそうであるが福祉との連携も考えていかなければならないと考える。「連携」がキーワードになると思われる。</li> </ol> </li> </ol> <p>第 2 回学校運営協議会 令和元年 11 月 19 日</p> <p>議題・ご意見</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>令和元年度 学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>各項目について進捗状況を説明</li> </ul> </li> <li>学校教育診断票の質問項目について <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の学校自己診断を行うに際し、昨年度の物を提示し、質問の項目について確認</li> </ul> </li> <li>授業アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> <li>形式を変更し、実施中の授業アンケート(保護者用・生徒用)について意図など説明</li> </ul> </li> <li>令和 2 年度 教科書について <ul style="list-style-type: none"> <li>各部で選定、決定した来年度使用する教科書について説明</li> </ul> </li> <li>80 周年記念行事について <ul style="list-style-type: none"> <li>80 周年を迎えるにあたり、現在 80 周年記念委員会で計画している内容について説明</li> </ul> </li> <li>1～5 について特にご意見なく承認</li> <li>意見交換 (まとめ) <ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携について</li> </ul> </li> <li>① おいでな祭について</li> </ol>

府立思斉支援学校

<p>内の予算編成について」「初任者等への校内研修の工夫」「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」などである。</p>	<p>12月に地域の方が中心に実施している「おいでな祭」について、次年度以降で本校の生徒の体験学習として参加を検討したい。→委員の方から地域の方に繋いでいただく。</p> <p>② 避難訓練について</p> <p>12月19日に火災による避難訓練の予定をしている。非常ベルを使用するが、地域の方に実際の火災と間違わないように、委員でもある町会長に連絡し住民の方に周知してもらう。また、当日地域の役員様が避難訓練を見学される。本校でも大規模災害に備え、地域との連携を考えていかなければと思う。</p> <p>第3回学校運営協議会 令和2年2月14日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和元年度 学校経営計画 最終評価について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各項目について最終評価を説明。</li> </ul> </li> <li>2. 令和元年度 学校教育診断票 集計結果（保護者・教職員）について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート集計結果より、考察した事柄について説明。</li> </ul> </li> <li>3. 令和元年度 授業アンケート 集計①             <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期に実施した授業アンケート 集計について考察した事柄について説明。</li> </ul> </li> <li>4. 令和2年度 学校経営計画について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の評価を受け、次年度の経営計画について、めざす学校像、中期的目標取り組み内容などについて説明。</li> </ul> </li> <li>5. 各議題に対する意見（まとめ）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和元年度 授業アンケート 集計① について                 <p>説明にもあったが、授業アンケートの結果をより精度の高いものにするなら、学校開放日を増やすなど工夫してほしい。</p> </li> <li>②令和2年度 学校経営計画について                 <p>「進路について適切な指導を行っている」の肯定意見80%をめざすとあるが、高等部1年より各区の基幹相談センター、区役所と連携し、制度のことや各区どのような事業所があるのかなどを知る相談会を、どんな形がよいのか探りながら実現できたらと考えている。</p> <p>⇒具体的な計画には至っていないが、懇談会の必要性は感じている。</p> </li> </ul> </li> </ol>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 授業力の向上	<p>(1) 授業力向上に向け研究テーマを絞って授業研究を進める。</p> <p>(2) 障がいの多様化に応じた教育活動が展開できるように研修を充実させ、専門性の向上を図る。</p> <p>(3) 外部人材を積極的に活用する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究部による授業見学会を継続実施し、各教員が、年間1回は必ず参加する。</li> <li>・研究部が授業改善に向けた研修会を実施する。</li> <li>・学部を越えた教科会を実施し、系統的な指導計画や指導の実際について改善を図る。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの多様化に伴う現場のニーズを反映させた研修会を、夏期公開講座の全4講座を中心に実施する。</li> <li>・Wi-Fi環境の整備、研修を通して、ICT機器の積極的な活用を推し進め、教員のICT活用スキルや活用頻度を引き上げる。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府福祉医療人材活用事業でPT、ST、OT臨床心理士を活用し、障がいの状況に合わせた指導法の改善に役立てる。</li> <li>・授業支援のためボランティアを活用する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(教職員)の「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」肯定的評価70%以上。</li> <li>・外部講師を招いた授業改善に向けた研修会を、年間2回実施する。</li> <li>・学部を越えた教科会を各学期1回ずつ開催する。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会参加の際のアンケートにおいて、参加して役立つなどの肯定的評価70%以上。</li> <li>・学校教育自己診断(教職員)の「校内支援が役に立った」「コンピュータ等ICT機器が授業などで活用されている」で肯定的評価90%以上。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉医療人材(PT、ST、OT、臨床心理士)からの指導助言等を全学部で閲覧できるようにファイル化する。</li> <li>・地域ボランティアに園芸の授業や、図書の読み聞かせ等を各年3回招き実施する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的意見は64%であった。他の授業を見学する機会をさらに工夫する必要がある。(△)</li> <li>・計画通り2回実施した。教職員の参加率も上がった。(○)</li> <li>・各教科、計画的に実施することができていた。(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にアンケート調査を実施し、ニーズの高いテーマであったため概ね良好な意見が多かった。(○)</li> <li>・ICT機器の活用については、肯定的意見は84%で、よく活用している。自主的なプログラム学習研修会を実施し、参加された先生方からは好評であったが参加が少なかった。(△)</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉人材活用を計画的に実施できた。指導助言も閲覧できるようにファイルの管理を変えた。(○)</li> <li>・地域のボランティアや保護者が小学部の授業や昼休みに絵本読み聞かせを実施した。(○)</li> </ul>

## 府立思斉支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 小学部 中学部 高等部の 連携性・ 系統性のある キャリア教育の 充実</p>	<p>(1) 教科領域のシラバスを作成する。</p> <p>(2) 児童生徒の一人ひとりの実態を踏まえたうえで、生涯にわたる身体づくりに取り組む。</p> <p>(3) 高等部職業コースの取り組みを、年間を通じて定着させ、実施内容を検証する。</p> <p>(4) 高等部職業コースの取り組みを小学部・中学部の取り組みとも関連させ、学校全体としての取り組みに進化させる。</p> <p>(5) 地域と連携した取り組みを進め、開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>(1) ・2020年度スタートに向けて、教科ごとに年間の学習題材や内容、評価基準を検討し、本校のシラバスの様式を完成する。</p> <p>(2) ・授業や休憩時間等を活用し児童生徒に応じた食育指導を計画、実施する。 ・食に関する情報、食育指導や食に関する学習の様子をホームページで情報発信し、保護者との情報共有を図る。 ・教職員全体へ、アレルギー対応等、緊急時の救急対応についての研修を実施する。</p> <p>(3) ・3学年ともに職業の授業を開講し、取り組みや内容、年間の流れを教職員全体で共有する。 ・進路指導部員が授業担当としてコースの運営に関わり、充実した授業づくりを図る。</p> <p>(4) ・キャリアマトリックスを作成し、小学部、中学部、高等部の系統性、連続性のあるキャリア教育の、具体的方策を構築する。</p> <p>(5) ・職業自立コースの喫茶実習を校内、校外で定期的に行い、就労に向けた学習の取り組みについて、地域に発信する。</p>	<p>(1) ・全学部、学年を通して、各教科学習内容が、系統立てて計画されているか検討し、様式を完成する。</p> <p>(2) ・学期に1回、食育指導を実施する。 ・給食の食材を活用し児童生徒に体験的な学習(野菜の皮むきなど)を実施する。 ・ホームページで食育ブログの更新を行う。 ・年1回、緊急時救急対応についての研修を実施する。</p> <p>(3) ・校外実習先を10件確保する。 ・受注作業の取引先を増やして、10種目の受注作業に取り組む。</p> <p>(4) ・キャリアマトリックスを作成する。 ・作成したキャリアマトリックスを反映させた小学部から高等部までの進路指導計画を作成する。 ・高等部職業コースの取り組みに関連して、小学部、中学部の児童生徒が参画できるシステムを作る。</p> <p>(5) ・年1回、地域のイベント等に参加して喫茶を出店し、接客実習を行う。 ・出店時にアンケートを実施し、課題分析を行い、授業の改善に役立てる。</p>	<p>(1) ・シラバスの様式に沿って一定のものは完成した。さらに充実したものへ検討は必要である。(○)</p> <p>(2) ・昼休みを利用して参加できる児童生徒で学期に1回「食について」の学習を楽しく実施した。(○) ・中学部は「えんどうのさやむき」を計画的に実施できた。(○) ・食育通信という形で7回(～1月)食育ブログを更新した。(○) ・心肺蘇生、AEDの使用方法について消防隊の救急訓練を実施して、研鑽を深めた。(○)</p> <p>(3) ・実習先をハローワーク等の協力である程度確保することはできた。(○)(延べ31か所) ・作業実習も予定実施し、新しい実習材料を使用し、学習にも取り組めた。しかしながら今後材料確保等困難になると予想される(○)</p> <p>(4) ・キャリアマトリックスの作成はできている。活用については今後の課題である。(△) ・作品展中に行われる喫茶実習に中学部3年生が販売学習の様子を見学する予定である。また事前の準備にも参加する。(○)</p> <p>(5) ・こさえたんマルシェに参加し積極的に実習を行うことができた。一緒に出店していた方から「よく声を出していた」と言葉をいただいた。(◎) ・生徒からの意見をまとめ、次回につなげられるようにした。(○)</p>
--	--	---	--	--

## 府立思斉支援学校

<p>3 センター機能の発揮と、安全で安心な開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒のニーズに応じた支援を実施する。</p> <p>(2) 校内支援を充実させ、専門的な取り組みについてのボトムアップを図る。</p> <p>(3) 教職員全員が、児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、お互いが思いやりのある環境づくりを推進する。</p> <p>(4) 様々な災害を想定した訓練を実施し、より現実に即した対応ができるようにする。</p> <p>(5) 開かれた学校づくりに向けた情報発信を行う。</p> <p>(6) 働き方改革を推進し、教職員の健康管理に努める。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーディングスタッフを中心とした支援体制を充実させ、地域の学校園の支援要請に応える。</li> <li>・教材等の提供や検査結果についてのアドバイスなども積極的に行う。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援室リーディングスタッフについては、地域の支援だけでなく、担任からの相談にも対応する。</li> <li>・リーディングスタッフ及び外部専門家によるアセスメント研修を実施する。</li> <li>・支援部教員による校内研修会を実施する</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な研修会を計画的に実施し、教職員の意識向上を図り、予防、早期発見、早期対応、指導の充実に努める。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間中、授業時間外の災害に備え、様々な被害状況を想定した避難訓練を実施する。</li> </ul> <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部の学習や校務分掌等の取り組みのようす、学校行事等の最新情報などを、随時ホームページで発信する。</li> <li>・大規模災害の発生に対応するため、地域との連携に努める。</li> </ul> <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務の縮減に向けて、週に一度の一斉退庁日を徹底する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援先の学校園へのアンケートを実施。総合評価平均で3以上。</li> <li>・本校で使用している教材等を紹介、貸し出しを行う。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(教員)において「校内支援が役に立った」肯定的評価80%以上</li> <li>・学校教育自己診断(教員)「初任者等経験の少ない教員を学校全体で育成する体制が取れている」肯定的評価65%以上</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権研修会を年間3回実施し、討論形式、講義形式、体験形式などの形式を取り入れる。</li> <li>・いじめ体罰事案0件。</li> <li>・学校教育自己診断(教員)「体罰やセクハラの防止をはじめ人権尊重に基づいた児童生徒指導が行われている」肯定的評価80%以上。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に時間・場所を連絡しない避難訓練を段階的に3回実施する。</li> <li>・階段や廊下等につけた名称を活用し、児童生徒や来校者に避難経路がわかりやすい訓練を実施する。</li> </ul> <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部のページをアップして教育課程や取り組みについて発信する。</li> <li>・ブログ等、学校ホームページの更新を、年間35回以上行う。</li> <li>・学校教育自己診断(教員)において「情報教育の手段として学校のホームページが活用されている」の肯定的評価80%以上。</li> </ul> <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉退庁日には、19時までに全教職員の95%は退勤する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ11校、64回の支援を行った。校数的には減じているがケースとしては28%増加している。アンケート結果は目標以上であった。(平均3.4の評価5点満点)(◎)</li> <li>・貸し出しもあったが件数は少なかった。(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己診断において肯定的意見が60%であり校内支援体制の構築が必要である。(△)</li> <li>・「初任者等が成長していけるよう校内研修が工夫されている」では、41%の肯定的意見しかなく後進育成を学校全体の課題としてとらえ取り組む必要がある。(△)</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研修会を2回(虐待・LGBT)、学部別事例研修会を3～4回、体験型形式の研修会を各学部1回実施した。(○)</li> <li>・児童生徒指導には、十分配慮がある場面もあった。(△)</li> <li>・89%と多くが肯定的な意見で回答している。(○)</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は火災・地震・津波等様々な災害を見越して実施できた。事前に通知しない実施には至らなかった。(△)</li> <li>・本部設置のシミュレーションを行い、実践的な想定で、階段・廊下につけた名称を利用して具体的な避難経路の指示をする訓練に心がけた。(○)</li> </ul> <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の取り組みの更新は一部出来ているが、全学部そろっていない。(△)</li> <li>・ブログお知らせは不定期に35回以上更新できた。(○)</li> <li>・ホームページについては、教職員では、肯定的意見が70%、保護者も75%で、工夫の必要がある。(△)</li> </ul> <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉退庁日は定着している。(○)</li> </ul>
---	--	--	---	--